

## プログラム解説

曲に関する情報が少ないため、作曲者、楽器にまつわる対談風にしました。

### ● J. X. ルフェーブル クラリネットソナタ第5番

ルフェーブルと聞くと中年以上の世代にはレーモン・ルフェーブル・オーケストラの名前が懐かしく思い出されますが。

今回の曲の作曲者 J. X. ルフェーブルとは多分関係ありません。他にもイヴォンヌ、シャルル、ローランなどの多数のルフェーブルという名前の音楽家があります。（レイモン・ルフェーブルもパリ音楽院で作曲とフルートを勉強しています。） J. X. Lefebvre (1763-1829) はフランスのクラリネット奏者でパリ音楽院の初代のクラリネット科教授を勤めた人です。

—その頃のクラリネットは今と同じなのですか。

現在のクラリネットには鍵（キー：指が届かない音孔をふさぐための遠隔操作の金具）が13本ありますが、彼の時代にはまだ6鍵の楽器が普通でした。これで半音階を吹くためには指使いに相当な困難が伴ったものと思われまます。

—どんな曲を書いていたのでしょうか。

ルフェーブルにはクラリネットのための多数の曲があります。音楽院での教育に使うために作曲したのでしょうか。カタログによればクラリネットソナタだけでも10数曲あるようです。

### ● F. シューベルトの歌曲の編曲

- ・ 歌曲集「美しき水車小屋の娘」より (1823)  
好奇心の強い男、どこへ？
- ・ 涙の賛美 D. 711 (1818)
- ・ セレナード「聞け、青空にいるひばりを」 D. 869 (1826)

—ある楽器のリサイタルの形式での労音の例会でこのような編曲がプログラムに登場するのは珍しいと思いますが。

歌曲やピアノ曲（メンデルスゾーンの無言歌集から）をクラリネット用に編曲して演奏すること自体は良くあることですが、労音の例会にこのような編曲が登場するのは比較的まれだと思います。（アンコールでは良くありますが）その楽器のために書かれたオリジナルな曲で一般になじみのある曲が少ない場合にはプログラムの中心が編曲ものになりがちですが、クラリネットについて言えばなじみのあるソロの曲に不足するわけではありません。

しかし、今回のプログラムの中心となる18世紀末から19世紀はじめにかけての初期ロマン派の雰囲気醸し出すためにこのような編曲ものの登場となったのだと思います。

- F. シューベルト 即興曲 op. 142 D935 より第 4 番 (ピアノ・ソロ)  
1827 年作曲。ヘ短調 3 / 8 拍子のアレグロ スケルツァンド。

- F. ダンツィ ソナタ 変ロ長調  
—ダンツィとはどんな人でしょうか。

フランツ・ダンツィ (1763-1826) はイタリア系のドイツ人で、マンハイム、ミュンヘン、シュトゥットガルトなどで活躍しました。世代としてはちょうどモーツァルトとベートーベンの間です。オペラ、交響曲など多数の曲を残していますが、今日演奏されるのは器楽の室内楽曲に限られています。特に多数の木管 5 重奏曲は同時代のもう一人の作曲家アントン・ライヒャ (1770-1836) の木管 5 重奏曲とともにアマチュアオーケストラの木管奏者にとっては大変なじみのある曲です。

—良く使われるクラリネットには調の異なる 2 種類があるということですが。

変ロ調の楽器 (B 管: ベー管と言い習わしています) とそれより 5 cm 程長く半音低い音の出るイ調 (A 管: アー管) の 2 種類があります。フラット系の曲 (ヘ調、変ロ調、変ホ調など) は B 管、シャープ系の曲 (ト調、ニ調、イ調など) は A 管で吹いた方が指使いが簡単なので管弦楽の中では曲の調性によって作曲者がどちらを使うかを指定しています。ソナタなどのソロの曲では B 管は比較的華やかな感じの曲、A 管は落ち着いた感じの曲に良く使われます。有名なモーツァルトの 5 重奏曲や協奏曲 (共にイ長調)、ブラームスの 5 重奏曲 (ロ短調) などは A 管用に書かれています。今回のダンツィ、ロッシーニ (変ホ長調)、メンデルスゾーンの曲は調性からいってすべて B 管で演奏されるはずですが。

—このソナタはどんな曲ですか。

定型的な急—緩—急の 3 楽章形式の曲です。ピアノにも大きな比重がかけられています。

- ロッシーニ ファンタジー

—これはいつ頃作曲された曲でしょうか。

ロッシーニ (1792-1868) は歌劇で大成功しましたが 1829 年の「ウィリアム・テル」を最後に歌劇の作曲から手を引き、長い後半生を宗教曲や小品のみを書いて悠々自適にすごしました。クラリネットとピアノのためのこのファンタジーはその 1829 年頃の作品です。序奏、主題と 2 つの変奏、間奏曲、終曲ロンドの 4 つの部分から成ります。

- F. ショパン ポロネーズ第 6 番 変イ長調 op. 53 「英雄」  
(ピアノ・ソロ)

1842年、ショパン 32歳の時のどなたもご存じの作品。

● F.メンデルスゾーンのピアノ曲の編曲

「無言歌集」より

失われた幻影 op. 67-2 1845

五月のそよ風 op. 62-1 1844

春の歌 op. 62-6 1842

春の歌はいろいろな編曲で親しまれている有名な曲です。

● メンデルスゾーン ソナタ 変ホ長調

ーメンデルスゾーンの管楽器のための曲は他にもあるのでしょうか。

メンデルスゾーンの管楽器のための室内楽曲は大変珍しく、この曲の他にはクラリネット・バセットホルン・ピアノの3重奏のための小品が2曲あるだけです。メンデルスゾーンは大変早熟な天才で、有名な「夏の夜の夢」序曲は彼が17歳の1826年の作品ですが、このクラリネットソナタはさらに若い1824年、彼が15歳の時の作品です。ただし、作曲後は埋もれていたようで出版されたのは1世紀以上たった1941年です。

ーこのソナタはどんな内容ですか。

第1楽章は緩やかな序奏を伴うかなり長いソナタ形式です。若いメンデルスゾーンのいろいろな工夫がこらされていて全く定型的ではありません。驚かされるような箇所もあります。

第2楽章は無伴奏クラリネットの哀愁を帯びた一節で始まります。晩年のスコットランド交響曲を思わせるような深い情感に満ちています。

第3楽章は第2楽章での沈んだ気分を吹き払うような軽快な楽章です。